

かがやき

令和7年 3月18日(火)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 20

今年も3月が過ぎて。「旅路」は続く。

3月で学年度末を迎えます。かがやきを利用している6年生には、かがやきの修了証書を手渡しました。低学年からの利用者もあり、そんな子供たちが6年生を迎え、自分なりに考え、悩みつつ、中学に進学していく姿に感慨もひとしおです(もちろん個々のご家庭から多大な理解、協力があつたことは大前提です!)。小学校6年間の学びを胸に、次の「旅」をスタートさせていってほしいと思います。ただ、上記の の歌詞を、個人的な解釈で、卒業生に重ねていくと、小学校の6年間で自分の「旅路」への準備ができたということでしょうか。

先日、中学年・高学年最後の小集団指導のまとめの中で、「少しずつ自分のことがわかっていく」ことについて話をしました。自分の凸凹に気が付かず、どうしていいかわからなかった(のかもしれない)。だから、自分を守るために怒ったり泣いたり、周囲とぶつかったり、ふさぎ込んだりもした(のではないか)。自分のこれまでの課題について振り返りをしていくと「そんなこともあつたなあ。」という感じに、話は展開していきました。

自分に対する客観的な視点が育ってくるのは、5年生以降とも言われています。卒業生もやっと少しずつ自分の感覚や気持ちに気が付いて、自分の周囲を見渡していくことができるようになりました。そんな風に感じます。

「旅路」の歌詞はこのように続いていきます。私たちもそうであつたように、小学校6年間は成長して振り返ってみれば意味合いが異なるものに進化していきます。この6年間という時間にどんな意味があつたのか、自分で見つけていって欲しいと思います。まだまだいろいろなことがあると思います。先の長い旅の始まりです。自分の学びを続けていってください。

かがやき卒業証書 授与式をしました！

6年生最後の小集団授業が13日(木)に行われました。凸凹はみんなにあること、その凸凹で困ってしまう事もある事、そういう時は相談することが大事だという事等、かがやきで最初に指導される事を改めて確認しました。「もうわかっているよ」と言った様子の6年生。またその際、かがやきの卒業証書を見童一人ひとりへ渡しました。

少し恥ずかしそうながらも、証書を受け取り、また証書をしばらく読んでいる見童もいました。

かがやきで学んだ報告・連絡・相談を駆使し、自分なりの力で羽ばたいていってほしいと思います。

↑授与式の様子。→卒業証書

